

神奈川県 風景と地質(3)

湘南ライフタウン

小林 政 夫

湘南ライフタウン付近の歴史と生い立ち

相模川の東側に広がる相模野台地の南端は、藤沢市付近では急崖を持って湘南砂丘地帯の海岸平野に接している。台地の縁に沿ってはしる国道1号線を、引地川に沿って北に折れると、前面に広い水田地帯が広がりその前方の丘陵の上には“大庭城跡”がある。大庭城は、NHKの大河ドラマ「草燃える」に登場した大庭景親の居城とも言われ、またこの付近一帯は中世の頃は大庭御厨と呼ばれ、伊勢神宮の庄園であったことでも有名である。

かつては、この付近の台地の上には畑地がひらかれ斜面をおおう雑木林や川沿の低地に農家が点在するのどかな風景が繰り広げられていた。昭和40年この大庭一帯の藤沢西部の地域に大規模な宅地造成が計画され、45年より工事が開始された。そのため387haにもおよぶ地域の台地はすっかり削られ高層住宅や団地の並ぶ風景に変わってつつあり、昔の面影をしのぶすがもない。現在、宅造のための整地工事はほぼ完了し、団地や住宅の建設が急ピッチで進められている。

昭和57年頃までには、すべて完成し、人口4万5千人（約1万3千戸）の一大住宅地となる予定である。この新開発地域について藤沢市では「湘南ライフタウン」という呼び名をあたえている。

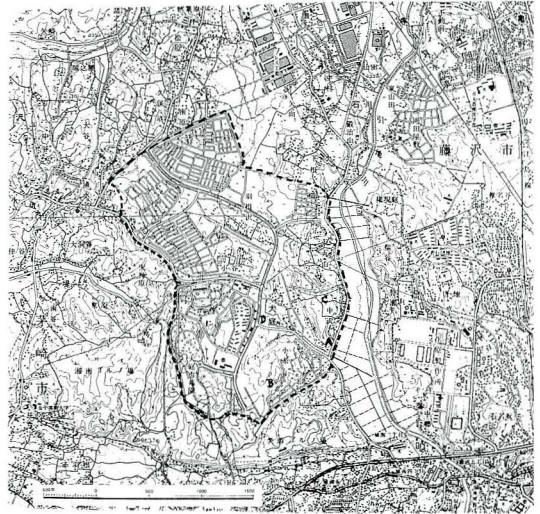


図1：湘南ライフタウンの位置と範囲

凡例 A. 大庭城跡 B. 小糸の谷宅造地 C. 城山北の崖 D. 小糸バス停

地形の上から眺めると

湘南ライフタウンの近辺は、地形的に見ても興味のある事象が見付かる所である。地理学の上で言う相模原台地は、相模川の東側に広がる洪積台地で北部は平坦であるが、南半分は境川・引地川・目久尻川などに刻まれ起伏に富んでいる。この台地は地形的に3段の段丘面を持つ相模野台地と高座・座間の2つの丘陵に分けられている。

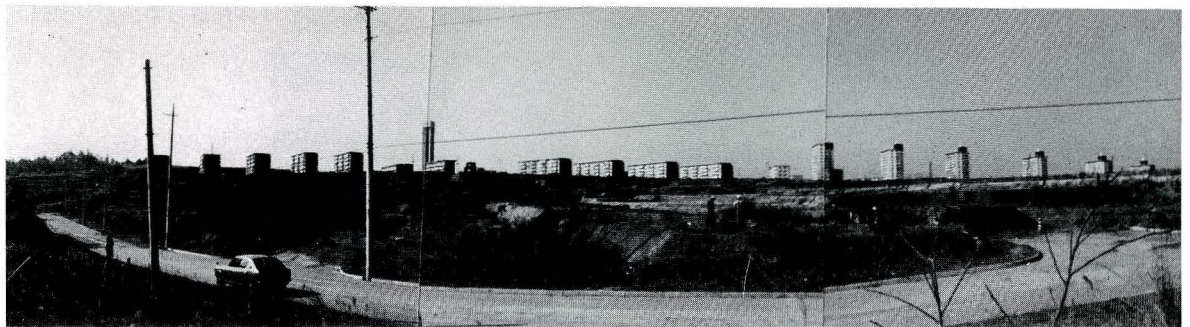


図2：湘南ライフタウン工事現場（小糸の谷）S.55.1.2 撮影

KOBAYASHI, Masao: The scenery and geology of Kanagawa Prefecture
(3) Fujisawa New-town
藤沢市立藤沢小学校

湘南ライフタウンの付近では、台地は2つの面に分けられている。南東部から北西部にかけての標高30~40m程の平坦面の多い台地（工事前の地形で）は、相模原面

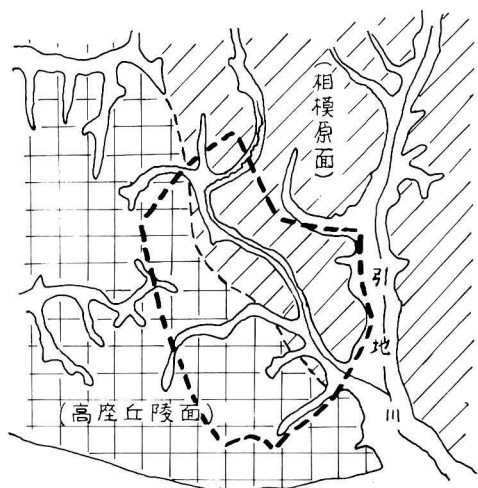


図3：地形面区分図（岡ほか，1977より）

で、ライフタウンのほぼ半分をしめる。西南部には標高40～50m程のや、開析の進んだ高座丘陵と呼ばれる一段高い面がある。この二面の境は、ライフタウンをほぼ二分する形で、北西―南東方向に走っている。

両地形面共、標高は南で高く、北に行くに従って高度を下げ、ライフタウン北側近くで最も低くなりそれより北では再び標高は増してくる。これは地殻変動の結果であり、この向斜軸は、(町田1973)により秦野―横浜線と名付けられている。地形面に対応する礫層も同じ様な傾斜を示し、大庭付近での湧水は、谷の北側の斜面に多く見られた。高座丘陵面南部には北に向って開析された谷がかなり見られるのは、この運動の影響を受けたものと考えられる。向斜軸にほぼ直交して流れる引地川は、この変動に対しての先行性の河川である。

以上述べた様な地形面をけずって湘南ライフタウンの工事が始められたため、下末吉ローム層や多摩ローム層の一部が目に見える様になった。

現われた地層

a. 基盤の地層 宅造工事が開始される以前には、この付近で露頭観察の可能な場所は大庭城跡の崖しか無かった。ここでは大庭砂層と呼ばれる礫まじりの砂層とその上を不整合におおう相模野礫層、その上部の新期ローム層中には、遠くからでも東京・三浦二本の軽石層がはっきりした帯としてみとめられる。

この地域は、大庭砂層および藤沢泥層と呼ばれる地層が基盤をなしている。大庭砂層は上述の崖を模式地として引地川沿いに分布する地層で、主として黄褐色の中・細粒の粗砂から成っている。上位にくる相模野礫層に不整合におおわれるが、大庭城跡の崖ではこの不整合がよく観察できる。



図4：小糸造成地の軽石層 S 55. 1. 2撮影
上からP・Q・R・S・Uの軽石層
手前の白いつぶは洗い出された軽石

ここから北方へおよそ500mはなれた城山の北の道路工事の崖では、相模野礫層の下位は砂をレンズ状にはさんだ青灰色の粘土層となってしまう。この粘土層が藤沢泥層と呼ばれているもので、場所によっては貝化石や植物化石が含まれていて内湾性の堆積物と考えられている。北の谷のこの層中にも生痕や貝化石の破片・木片化石がかなり含まれている。

藤沢泥層と大庭砂層との関係ははっきりしていないが、これは砂泥互層中の砂ないしは泥の単層部を呼んだもので区別すべきではないとして、両者を一括し藤沢砂泥互層とする意見も出されている(寿円・奥村1971a)。これらの両層は、岩相上から屏風ヶ浦層の一部に対比されていたが、これと同時異層の関係にあると考えられている後述の高座丘陵砂礫層が吉沢ローム(下末吉ローム相当)に整合におおわれているので、現在では下末吉海進時の堆積物と考えられている。

b. 高座丘陵砂礫層と下末吉ローム層

地形面区分に示すように高座丘陵面は造成地のおよそ半分をしめている。造成地南部の小糸の谷の二個所でこの礫層が観察できる。ここでは砂礫層の中にレンズ状に



図5：高座丘陵砂礫層
S 53. 1. 7撮影

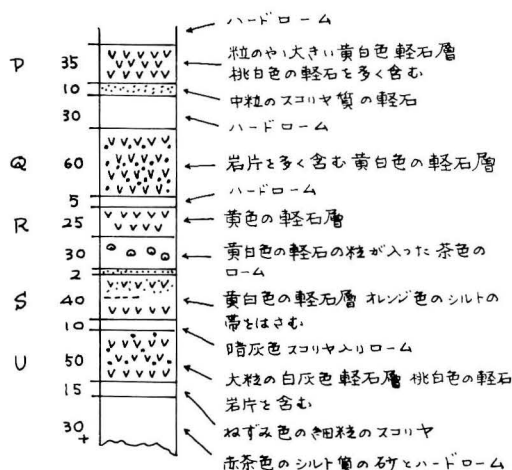


図6：P-U軽石層の柱状図

入っているのがみとめられ、下限は不明であるが層厚は4 m以上あると思われる。砂礫層の上には整合に下末吉ローム層以上のローム層が堆積し、小糸付近では25 mもの厚さであった。下部から7 m程は、軽石層の密集帯で9枚の軽石層の堆積が見られた。

現在は工事のために削られたり、客土におおわれたりしていて軽石層を順に追うことは困難になってきた。しかし、あちらこちらの宅造の小さな法面での露出部分を調べると、K-B・K-A・およびP・Q・R・S・Uの軽石層を見ることができる。K-Cより上位にある軽石層は、すでに削り取られ小糸の谷の工事現場からは消えてしまっている。

宅造地中央部に見られるP～Uの軽石層の特徴と柱状図を図一6に示す。どの軽石層もかなり粒の大きい軽石から出来ているが、とくに一番下位にあるU軽石中の粒は大きく、風雨によって洗い出された軽石は、付近に散らばり大粒の鹿沼土をばらまいた様な状況を示している。測定されたU軽石の年代は、今からおよそ13万年以前のものとされている。

c. 相模野礫層 湘南ライフタウンの東半分をしめる武蔵野面では、上位の立川・武蔵野ローム層の下に相模野礫層が堆積している。おもに石英閃緑岩・輝緑岩・緑色凝灰岩・チャート・硬砂岩などから成るかなり円磨された礫層でうすい砂層をとまなう場所が多い。砂によって充填されており鉄酸化を受けて表面が赤茶色になった礫が多く、くさり礫もかなり含まれこの礫は簡単に細かく割ることができる。この上には武蔵野ローム層中部以上のローム層が整合に重なり、大庭城跡の崖、小糸バス停前、城山北側の崖などで観察できる。

d. 新期ローム層 宅造地内の崖の相模野礫層の上の



図7：小糸バス停前の崖の東京軽石層

ローム層中にはほとんどの所で東京・三浦の二枚の軽石層がセットになって観察できる。東京軽石層は赤褐色(乾くと黄白色)の軽石層で厚さ40 cm位、その下およそ30～40 cmはなれて厚さ10 cm程度の同じ様な軽石層があるがこれが三浦軽石層である。この二枚は武蔵野ローム層の下部を示すよい鍵層となっている。

城山北側大庭中学校正門前の崖には、三浦軽石層の下50 cmの所にとびとびながら軽石が層になって続いているのが見られるがこれは安針軽石層である。

最上部の立川ローム層中には、この付近では鍵層として使えるような堆積物はないが、露頭が新しい所では二枚の黒色帯がみとめられる。

地史の概略

小糸の大庭石材店北東の崖には、厚さ4 mの高座丘陵砂礫層の下に生痕化石の多い厚さ8 mのシルト層がある。この下には多摩ローム層の「ドーラン軽石」に対比されるという軽石層がありその上には軽石流堆積物も見られる。これが湘南ライフタウン付近の最も古い地層と考えられるが、ここでは下末吉海進以後の地史の概略について述べる。

下末吉期などの海進によってこの付近一帯は海におおわれ、基盤となる藤沢泥層・大庭砂層・高座丘陵砂礫層が堆積した。

11万年位前から海は退きはじめ陸化した土地には箱根火山からの噴出物が堆積をはじめた。これが下末吉ローム層である。

その後、この付近を流れる様になった古相模川により段丘がきざまれ、相模野礫層が堆積した。これはおよそ6～7万年位前の出来事と思われる。

川の流路が変わり離水した礫層の上や、古相模川にけずり残された土地の上に武蔵野ローム以上のローム層が堆積した。東京軽石層の年代はおよそ5万年前と言われ

ているのでこの付近の台地は、5 万年以前陸化し現在に
いたったものと考えられる。

参考文献

寿円晋吾・奥村清 1971 相模野台地およびその西方諸
台地における沖積層とローム層. 神奈川県地
盤地質調査報告書: 59-70.

町田洋 1973 南関東における第四紀中・後期の編年と
海成地形面の変動. 地学雑, 82, (2): 17-24.
見上敬三 1978 神奈川県の地質. 神奈川県史各論編 4,
自然: 71-378.
岡重文 1977 相模川中・下流域の地形区分と段丘変形.
関東の四紀(4): 33-38.